

1 医療機能

項目	委員の意見	現状と課題	今後の方向性（たたき台）
①民間では受入困難な患者	<ul style="list-style-type: none"> ● 今までのリハと違ってきており、超高齢者に対するリハビリテーションをどうしていくか考えることが必要 ● 現在はあちこちに民間の回復期リハビリテーション病院があり、都リハビリテーション病院設置当初より環境が変わってきている。回復期のままでいいのか、また在宅をフォローするなど、機能的に何を指すのか検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 入院患者は60歳代以上が全体の60%以上となっており、80歳代以上は25%程度となっている ● 都リハビリテーション病院は日常生活動作の指標であるFIMが入院時75.93→退院時106.4（+30.47）と利得が大きい ● 地域リハビリテーション推進科では、訪問診療、訪問リハビリ事業を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 超高齢者の患者や重症患者の積極的な受入れ ● 将来の受療動向を見据え、リハビリテーション対象領域の拡大を検討
②高次脳機能障害患者	<ul style="list-style-type: none"> ● 高次脳機能障害は地域、会社の理解が進まない。家族・会社の受入れの橋渡しをお願いしたい ● 高次脳機能分野ではピアカウンセリングの視点を取り入れている。障害当事者をいかに活用していくか検討してほしい ● ドライビングシミュレーターはじめとした先進的なリハビリテーション機器、高度な研究の成果を臨床の現場で実践すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化に伴う医療需要の増加へ対応する必要がある ● 高次脳機能障害は記憶障害などの特性から、復職・社会復帰が課題となっているが、都リハビリテーション病院では、「療養・就労両立支援室」において患者の復職、就労継続を支援 ● 都から高次脳機能支援事業を受託しており、圏域の支援者に対する研修会などを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「療養・就労両立支援室」による患者の復職、就労継続の支援 ● ドライビングシミュレーターや先進的なリハビリテーション機器の活用を促進

東京都リハビリテーション病院が担うべき役割・機能、今後の方向性について

1 医療機能

項目	委員の意見	現状と課題	今後の方向性（たたき台）
③小児患者	<ul style="list-style-type: none">● リハビリテーションの受け入れが少ない医療的ケアの必要な子どもを含む小児患者の受け入れも必要ではないか	<ul style="list-style-type: none">● 10歳代の入院患者は年間12人程度（過去5年間平均）受け入れている● 臨床心理士を配置し、院内学級を設け、復学に向けた支援を行っている● 小児患者については、病名はつかないがリハビリテーションの支援が必要な児への対応や、療育センターにいた児が18歳となったことを機に都リハで見るようになるような場合がある● 医療的ケア児の対応はしていない	<ul style="list-style-type: none">● 脳血管疾患、脊髄損傷などの小児患者を積極的に受け入れ、リハビリテーションの提供とともに復学等の支援を実施

東京都リハビリテーション病院が担うべき役割・機能、今後の方向性について

<行政的役割・機能に関する取組及び実績>

- 仕事とリハビリテーション医療の両立を図り、就業の継続を目指すことを目的に令和5年4月に「療養・就労両立支援室」を設置し、患者がスムーズに復職しかつ負担なく就労を継続できるよう支援
- 自動車運転を必要とする患者に対して「ドライビングシミュレーター」を用いた運転技術の訓練・評価を実施
- 小児患者の受入れも積極的に行っており、開設当初から臨床心理士を配置している他、院内学級を設けており、入院中の学習環境を確保し、復学に向けた支援を実施

行政的役割・機能		延患者数（人）				
		R1	R2	R3	R4	R5
療養・就労両立支援		-	-	-	-	22
摂食嚥下障害訓練		4,383	4,277	4,150	4,244	5,372
自動車運転再開支援（医師による評価件数）		53	84	94	96	113
高次脳障害者特別訓練プログラム（グループワーク）※		-	-	-	-	68
墨東支援学級と協力した院内教室		420	375	0	105	375
臨床心理士業務	小児患者対応（18歳以下）	894	888	274	472	523
	希死念慮患者対応	1,668	1,294	1,453	673	734
	その他（心理検査・心理療法等）	1,520	1,411	1,395	923	945

※ 延患者数は令和5年度のみ把握

東京都リハビリテーション病院が担うべき役割・機能、今後の方向性について

2 人材育成・研究

項目	委員の意見	現状と課題	今後の方向性（たたき台）
①人材育成	<ul style="list-style-type: none">● 今後、85歳以上高齢者が増加し、リハビリテーションの需要はますます高くなることから人材の育成は必要● 理学療法士はたくさんいるが、作業療法士及び言語聴覚士は少なく、大学病院でも集まらない● 在宅の分野での人材育成も重要。地域では、大規模な訪問看護事業所には療法士がいるが、小規模の事業所にはいない	<ul style="list-style-type: none">● 看護師エキスパート研修や認定看護師研修、療法士への認定資格者養成など人材育成に取り組んでいる● 看護師エキスパート研修では、院外の医療機関からも研修生を受け入れている● 都リハビリテーション病院の人材育成・研修ノウハウを活用し、高度専門リハビリテーションの更なる充実と地域の医療従事者の技術の底上げが求められている	<ul style="list-style-type: none">● 院内外を問わず、医療従事者に対する教育体制を構築し、リハビリ医療の強化・充実に取り組んでいく
②研究	<ul style="list-style-type: none">● 超高齢者に対するリハビリテーションの研究をやってもらいたい	<ul style="list-style-type: none">● リハビリテーション医療における診断方法、治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解並びに患者の生活の質の向上等を目的として、院内臨床研究を実施	<ul style="list-style-type: none">● 引き続き職員の学会・研修会への派遣、研究活動等に重点的に取り組み、都内のリハビリテーション医療の質の向上に貢献していく

東京都リハビリテーション病院が担うべき役割・機能、今後の方向性について

3 地域支援

項目	委員の意見	現状と課題	今後の方向性（たたき台）
地域支援	<ul style="list-style-type: none">在宅療養前の予防や元気な方への取組など、予防に重点を置いた支援の開発・研究を期待したい千葉リハビリテーションセンター、神奈川リハビリテーション病院は特色ある取組をしている。都ならではの取組を進めるべき	<ul style="list-style-type: none">都内12圏域にある地域リハビリテーション支援センターの連絡会を開催するとともに、センターのあるべき方向性の確立に向けた活動指標の作成を推進島しょへ療法士を派遣するなど、リハビリテーション支援を実施東京都の地域リハビリテーション支援事業や高次脳機能障害支援普及事業を受託するとともに、墨田区在宅リハビリテーション支援事業を墨田区及び墨田区医師会と共同して実施	<ul style="list-style-type: none">地域リハビリテーション支援センターの取りまとめ役として、機能を強化都や地元区等からのニーズに応じて必要なリハビリテーションを支援

4 災害時対応

項目	委員の意見	現状と課題	今後の方向性（たたき台）
災害時対応	<ul style="list-style-type: none">災害時の医療救護活動について地元からの声もあるので、災害機能への位置付けも検討してほしい	<ul style="list-style-type: none">白髭東防災拠点内に位置し、墨田区地域防災計画に定める医療活動を行う「災害医療支援病院」に位置付けられているが、地域から更なる災害医療対応を求められている	<ul style="list-style-type: none">災害時の医療救護活動については、墨田区とも調整し、都リハビリテーション病院としての機能の強化を検討

東京都リハビリテーション病院が担うべき役割・機能、今後の方向性について

5 都リハビリテーション病院の役割・機能、今後の方向性（まとめ）

1 医療機能	①民間では受入困難な患者	<ul style="list-style-type: none">● 超高齢者の患者や重症患者を都全域から広く受入れ● 将来の受療動向を見据え、リハビリテーション対象領域の拡大を検討
	②高次脳機能障害患者	<ul style="list-style-type: none">● 「療養・就労両立支援室」による患者の復職、就労継続の支援● ドライビングシミュレーターや先進的なリハビリテーション機器の活用を促進
	③小児患者	<ul style="list-style-type: none">● 脳血管疾患、脊髄損傷などの小児患者を積極的に受け入れ、リハビリテーションの提供とともに復学等の支援を実施
2 人材育成・研究	①人材育成	<ul style="list-style-type: none">● 院内外を問わず医療従事者に対する教育体制を構築し、リハビリテーション医療を強化・充実
	②研究	<ul style="list-style-type: none">● 職員の学会・研修会への派遣、研究活動等を重点的に実施
3 地域支援		<ul style="list-style-type: none">● 地域リハビリテーション支援センターの取りまとめ役として、機能を強化● 都や地元区等からのニーズに応じて必要なリハビリテーションを支援
4 災害時対応		<ul style="list-style-type: none">● 災害時の医療救護活動については、墨田区とも調整し、都リハビリテーション病院としての機能の強化を検討

➡ 都リハビリテーション病院の担うべき役割等を踏まえた病院の運営形態については、今後検討